

## 当科の概要・特徴

当科は古くから札幌市の中核病院小児科として、地域の小児医療に貢献してきています。平成22年4月には福島部長の退職にともない、川村が北海道大学医学研究科小児科学分野から赴任致しました。これまで当科で多くフォローしている糖尿病・内分泌・神経筋疾患等に加えて、さらに免疫アレルギー・リウマチ性疾患についても診療体制を整えているところです。治療法の標準化が遅れている食物アレルギーや難治性の患者さんにも十分に対応したいと考えています。また、当科は札幌市の小児二次救急病院として夜間・休日の当番も担当しており、小児救急医療においても重要な役割を担っています。

当院には院内学級として札幌市立東米里小・中学校「ひまわり分校」が併設されており、入院学童の学習サポート体制も整っています。最近では慢性疾患の管理が向上して長期入院患者は減少傾向ですが、比較的短期間の入院患者にも柔軟に対応が可能です。

なお、当科は日本小児科学会、日本アレルギー学会、日本小児神経学会などの専門医研修施設にも認定されており、さらに北海道大学大学院医学研究科の連携講座として専門教育を行う体制も準備しています。

## 診療体制

一般小児科は常勤医5名（川村信明、須藤 章、佐野仁美、小関直子、藤原伸一）・嘱託医2名（福島直樹、武田充人）と若干名の臨床研修医と共に日常診療業務を行っています。

外来は月～金曜日午前中に急性疾患主体の一般外来を毎日行っており、午後には主に慢性疾患の予約患者を診療しています。当科への患者さんのご紹介に際しては、翌日以降の受診の場合は地域医療室・地域連携センターを通して予約して頂ければと思います。なお、当日入院が必要な患者さんについては、午前・午後とも小児科外来に直接連絡して頂ければこれまで同様に対応致します。



前列左より：  
須藤医師・川村部長・嘉成研修医  
後列左より：  
藤原医師・谷口後期研修医

小児科  
部長  
川村 信明



## 入院の状況

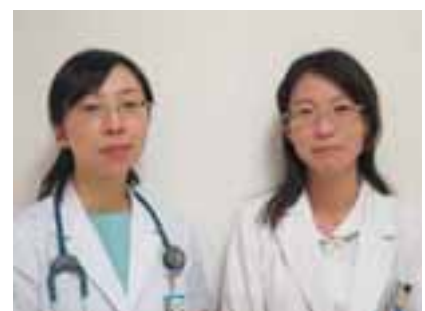
年間入院患者数は約1,000人程度ですが、当科フォロー中の患者さん以外にも近隣の医療機関からの紹介患者や二次救急依頼患者の比率が比較的高くなっています。急性疾患の入院患者が多いため平均在院日数は5～7日であり、ほとんどの紹介患者を受入れ可能な状況です。疾患によってはベッド調整が必要な場合がありますが、入院依頼は基本的には全てお引き受け致しますので、今後とも宜しくお願い致します。

## おわりに

今後も常に最新情報に目を配りながら、エビデンスに基づいた医療を実践していきたいと考えております。そして、地域の医療機関との機能的な連携によって患者さんにとって安心できる医療を目指しておりますので、今後とも宜しくお願い致します。



病棟カンファレンス



左より：小関医師・佐野医師